



平成30年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月10日

上場会社名 PCIホールディングス株式会社
 コード番号 3918 URL <http://www.pci-h.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部長
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-6858-0530

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第3四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	10,746	31.0	561	4.6	596	0.7	326	15.2
29年9月期第3四半期	8,201	30.9	589	21.4	592	19.3	384	14.2

(注) 包括利益 30年9月期第3四半期 324百万円 (15.5%) 29年9月期第3四半期 384百万円 (14.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第3四半期	79.43	79.10
29年9月期第3四半期	102.39	101.36

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年9月期第3四半期	8,724	4,888	56.0	1,163.17
29年9月期	6,530	3,433	52.6	908.42

(参考) 自己資本 30年9月期第3四半期 4,888百万円 29年9月期 3,433百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期		0.00		50.00	50.00
30年9月期		0.00			
30年9月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,300	25.5	730	1.8	762	4.9	455	0.9	110.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期3Q	4,250,200 株	29年9月期	3,781,600 株
期末自己株式数	30年9月期3Q	47,876 株	29年9月期	1,450 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期3Q	4,104,866 株	29年9月期3Q	3,754,670 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年10月1日～平成30年6月30日)における我が国経済は、輸出や企業収益、雇用情勢に改善がみられ、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、海外経済の不確実性や通商問題の動向、地政学的リスクへの懸念等、先行き不透明な状況下で推移いたしました。

当社グループが属する情報サービス産業におきましては、「第4次産業革命」とも呼ばれるクラウドやビッグデータ、IoT(※1)、人工知能(AI)等の新技術活用による新たな付加価値創造への期待に加え、企業収益の改善や情報セキュリティ対策強化の意識の高まり等を背景として設備投資に緩やかな増加傾向がみられ、IT投資需要は総じて堅調に推移したものの、依然としてIT技術者不足が常態化しており、人材確保が継続的な課題となっております。

このような状況下において、当社グループは、あらゆるモノがインターネットを介して繋がるIoT/IOE(※2)社会「Connected World」の到来を見据え、当社グループの成長戦略の柱であるIoT/IOEソリューション事業の裾野を広げて既存サービスとのシナジーを創出することを目的に、平成29年12月13日付にてインターネット関連事業及び通信事業を営む株式会社りふねつとを株式交換により完全子会社化し、平成30年6月には株式会社パイテックホールディングスとの資本業務提携契約を締結する等、事業規模拡大に向けた各種施策に取り組んでまいりました。また、グループ各社を集約し、グループ間の業務効率向上及びシナジー創出を目的として、平成30年1月に本社を東京都江東区から港区へ移転した他、IoT/IOE社会の実現と共に危惧される情報セキュリティ対策の一つとして、当社グループは革新的サイバーセキュリティソフト「AppGuard®」の販売及び付随するサービスの提供を開始し、平成30年6月には「AppGuard®」に係る事業拡大を目的とした合弁会社Safer Connected World株式会社(連結子会社)を設立する等、社会的課題の解決と「安心・安全・豊かな社会」を目指した事業展開に注力してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は10,746百万円(前年同期比31.0%増)、営業利益は各種M&A費用、AppGuard事業開始に伴う戦略的投資及びグループ各社集約に伴う賃料の増加等により561百万円(前年同期比4.6%減)、経常利益は596百万円(前年同期比0.7%増)となりました。なお、平成29年10月2日付にてInspiration株式会社の全株式を売却したことにより特別利益99百万円を計上し、移転にかかる費用の特別損失の計上に加え、第2四半期連結会計期間に連結子会社における保有有価証券のうち簿価に比べて時価が著しく下落したものについて、136百万円の投資有価証券評価損を特別損失として計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は326百万円(前年同期比15.2%減)となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(ITソリューション事業)

ITソリューション事業につきましては、売上高は8,503百万円(前年同期比30.7%増)となり、セグメント利益は513百万円(前年同期比22.8%増)となりました。

以下では、ITソリューション事業における概況と売上高を主要区分別に示します。

① エンベデッドソリューション

エンベデッドソリューションの展開につきましては、高度な技術を要するエンベデッド技術者育成に努めると共に、車載情報系案件からより参入障壁の高い車載制御系案件、AUTOSAR(※3)開発案件の受注拡大に注力し、加えて、顧客企業への提案型開発アプローチを推進してまいりました。また、当社グループの開発実績と自動車業界における先進技術を用いた安全運転支援システムを搭載したスマートカー開発関連案件や自動運転シミュレータ開発等が引き続き好調に推移する等、既存顧客からの安定した引き合いが継続し、総じて好調に推移いたしました。

以上の結果、エンベデッドソリューションの売上高は3,531百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

② ビジネスソリューション

ビジネスソリューションの展開につきましては、既存取引先との深耕拡大及び新規顧客の開拓に努め、大手企業からの新規受注が増加する等、収益構造の改善に向けた各種施策が功を奏しました。また、多岐にわたる顧客需要に応えるべくビジネスパートナーとの更なるアライアンス強化に取り組んでまいりました。

企業向けソフトウェア開発においては、金融機関向け案件が好調に推移いたしました。また、前連結会計年度に子会社化した株式会社シー・エル・シーが展開するメインフレーム分野においても、Dell EMC バックアップ環境構築案件等大型案件が売上に寄与する等、総じて好調に推移いたしました。

以上の結果、ビジネスソリューションの売上高は4,972百万円(前年同期比47.9%増)となりました。

(IoT/IOEソリューション事業)

IoT/IOEソリューション事業につきましては、売上高は935百万円(前年同期比72.9%増)となり、セグメント利益は65百万円(対前年同期比4.6%減)となりました。なお、新たに連結子会社となった株式会社リーフねっこの業績を第2四半期会計期間より計上しております。

当事業の展開につきましては、上述の株式会社リーフねっかが展開する通信事業分野及びソリューション事業分野が収益に大きく寄与した他、当連結会計期間より取扱いを開始した「AppGuard®」の知名度向上及び販売強化に向けた各種取り組みに注力いたしました。また、建設機械業界における「インダストリアルIoT」への取り組みを背景に、当社グループの得意とする通信制御技術をコア技術とした重機・建機分野案件が好調に推移いたしました。

(半導体トータルソリューション事業)

半導体トータルソリューション事業につきましては、売上高1,345百万円(前年同期比16.6%増)となり、セグメント利益は75百万円(前年同期比16.7%減)となりました。

電気自動車や自動運転車向け及びIoT向け半導体需要の増加による国内外半導体市況の好調を背景に、主要顧客からの継続的な受注に加えて、自動車向けファームウェア(※4)開発やイメージセンサ向けテスト開発案件等、既存顧客深耕による売上が伸びました。また、半導体関連事業者以外の機械系企業からの商談が増加し、新規案件受注に至る等、総じて好調に推移いたしました。

(注) 上記に用いられる用語の説明は以下のとおりであります。

(※1) IoT: (Internet of Things)

コンピュータ等の情報・通信機器だけでなく、様々な「モノ」に通信機能を持たせ、インターネットに接続、相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測等を行うこと。

(※2) IOE: (Internet of Everything)

IoTよりも広い概念であり、ヒト・モノ・プロセス・データ等がインターネットにつながり、相互に通信が可能となる技術や状態、仕組みのこと。

(※3) AUTOSAR: (AUTomotive Open System ARchitecture)

車載ソフトウェアプラットフォームの仕様の名称及び自動車業界のグローバル開発パートナーシップのこと。

(※4) ファームウェア: (Firmware)

ハードウェアに組み込まれて動作する制御用のプログラムのこと。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、8,724百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,194百万円増加いたしました。

流動資産につきましては、現金及び預金226百万円、受取手形及び売掛金239百万円、電子記録債権23百万円、たな卸資産49百万円の増加の一方で、その他113百万円の減少により、前連結会計年度末に比べ425百万円の増加となりました。

固定資産につきましては、有形固定資産196百万円、無形固定資産1,290百万円、投資その他の資産279百万円の増加により、前連結会計年度末に比べ1,766百万円の増加となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、3,835百万円となり、前連結会計年度末に比べ739百万円増加いたしました。

流動負債につきましては、買掛金70百万円、1年内償還予定の社債117百万円、1年内返済予定の長期借入金25百万円、賞与引当金215百万円、その他169百万円の増加の一方で、短期借入金65百万円、未払金269百万円、未払法人税等186百万円、資産除去債務31百万円の減少等により、前連結会計年度末に比べ49百万円の増加となりました。

固定負債につきましては、社債103百万円、長期借入金237百万円、役員退職慰労引当金259百万円、資産除去債務61百万円、その他18百万円の増加等により、前連結会計年度末に比べ690百万円の増加となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は4,888百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,454百万円増加いたしました。これは主に株式交換による資本剰余金の増加1,467百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益326百万円の方で、自己株式の買付149百万円、剰余金の配当189百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は56.0%（前連結会計年度末は52.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期の連結業績予想につきましては、平成30年5月10日の「平成30年9月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,935,375	2,162,101
受取手形及び売掛金	2,673,405	2,913,344
電子記録債権	189,143	212,476
たな卸資産	91,828	141,412
その他	505,474	391,598
流動資産合計	5,395,226	5,820,932
固定資産		
有形固定資産	118,181	315,175
無形固定資産		
のれん	100,422	1,221,718
その他	74,966	244,023
無形固定資産合計	175,388	1,465,741
投資その他の資産	841,023	1,120,092
固定資産合計	1,134,593	2,901,008
繰延資産	223	2,231
資産合計	6,530,044	8,724,172
負債の部		
流動負債		
買掛金	695,217	765,906
短期借入金	65,000	—
1年内償還予定の社債	120,000	237,500
1年内返済予定の長期借入金	69,833	95,436
未払金	647,991	378,147
未払法人税等	225,658	39,524
賞与引当金	94,005	309,056
役員賞与引当金	10,600	13,872
受注損失引当金	—	123
資産除去債務	33,488	1,670
その他	601,893	771,480
流動負債合計	2,563,688	2,612,719
固定負債		
社債	290,000	393,750
長期借入金	—	237,987
役員退職慰労引当金	92,193	351,814
退職給付に係る負債	126,089	135,399
資産除去債務	14,834	76,319
その他	9,265	27,541
固定負債合計	532,382	1,222,812
負債合計	3,096,071	3,835,531
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,043,541	1,043,680
新株式申込証拠金	—	278
資本剰余金	1,181,881	2,649,201
利益剰余金	1,206,521	1,343,578
自己株式	△980	△150,930
株主資本合計	3,430,963	4,885,807
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,008	2,499
その他の包括利益累計額合計	3,008	2,499
非支配株主持分	—	333
純資産合計	3,433,972	4,888,640
負債純資産合計	6,530,044	8,724,172

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	8,201,903	10,746,975
売上原価	6,234,800	7,810,686
売上総利益	1,967,102	2,936,289
販売費及び一般管理費	1,378,011	2,374,489
営業利益	589,091	561,799
営業外収益		
受取利息及び配当金	193	12,227
助成金収入	1,900	29,748
その他	3,916	5,918
営業外収益合計	6,009	47,894
営業外費用		
支払利息	1,216	9,555
支払手数料	1,234	2,111
その他	52	1,291
営業外費用合計	2,502	12,959
経常利益	592,598	596,734
特別利益		
関係会社株式売却益	—	99,835
その他	—	0
特別利益合計	—	99,835
特別損失		
固定資産除却損	310	1,572
投資有価証券評価損	—	136,647
本社移転費用	—	16,561
その他	—	1,540
特別損失合計	310	156,320
税金等調整前四半期純利益	592,287	540,249
法人税、住民税及び事業税	226,417	232,162
法人税等調整額	△18,552	△17,311
法人税等合計	207,864	214,851
四半期純利益	384,422	325,398
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△666
親会社株主に帰属する四半期純利益	384,422	326,064

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	384,422	325,398
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△509
その他の包括利益合計	—	△509
四半期包括利益	384,422	324,889
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	384,422	325,555
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△666

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、平成29年12月13日付で、当社を株式交換完全親会社、株式会社りーふねつとを株式交換完全子会社とする株式交換を行ったため、資本剰余金が1,467,180千円増加しております。